

2003 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	建築企画小委員会	主 査 名：高田光雄
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納成男
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築企画の社会性や評価、職能に関する調査研究 諸外国と我が国の建築企画の業務・組織の比較分析 最新の建築企画情報の収集	
委員構成 (委員名(所属))	高田光雄(京大), 阪田弘一(京工大), 田中直人(摂南大), 上田正人(阪急電鉄), 上野祐子(MD 研究所), 江本達哉(JR 西日本), 柏原士郎(阪大), 角野幸博(武庫川女大), 木多彩子(摂南大), 佐々木正人(竹中工務店), 高井宏之(三重大), 所千夏(安井建築設計事務所), 萩原正五郎(大林組)	
設置 WG (WG 名:目的)	建築企画最新事例収集 WG	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	本年度は、先に刊行企画書を提出している『(仮称)新建築企画論』の執筆・編集に専念するため、全体の委員会は開催せず、個別の打ち合わせと編集WGを中心とした活動を行った。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 著者の交代など様々な問題を解決し、年度末に全員の原稿を集めることができた。次年度の早い時期に技法堂出版より『(仮称)新建築企画論』を刊行する予定である。当初の予定からすると、執筆が大幅に遅れ、一部の著者については書き換えを行うことになったが、結果としてはほぼ全員の原稿がそろい、刊行企画において設定した当初の目的は十分に達成されたと考えられる。成果の学術的、技術的、社会的価値は少なくない。今後、講習会等を開催し、出版物の活用とPRを進める予定である。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 様々な不測の事態の発生により、著書の刊行が遅れたため、当初予定していた見学会や研究会の開催ができなかったのは反省点である。今年度計画していた見学会、研究会は次年度実施を検討したい。
その他評価すべき事項	